

鹿と飛火野

奈良公園には約 1,300 頭の野生の鹿が生息しています。奈良の鹿は、春日大社に祀られている 4 柱の神の 1 柱、武甕槌命（雷神）の遣いとして崇められてきました。武甕槌命は、東京の近く茨城県の鹿島神宮の祭神であり、奈良時代(710-784)の初期、御蓋山の山頂に白鹿に乗って現れたといわれています。

鹿は奈良において 1,250 年以上に渡って大切にされてきたため、鹿が人を怖がることはほとんどありません。観光客があげられるように、公園で売られている特別なせんべいもらえることを期待して、多くの鹿はお辞儀を覚えています。春日大社の境内や奈良公園では、6 月から 7 月に生まれる、小鹿の赤ちゃんや、その後を追って行く母鹿の姿を見ることができます。

春日大社の植物や木の周りの柵の多くは、鹿が葉っぱを食べて枯らすのを防ぐために設けられています。

春日大社近くの飛火野では、観光イベントである「鹿寄せ」が行われています。鹿寄せは、ホルンの音色で鹿を呼び寄せる、奈良の風物詩です。